

# JIA会員による建築ボランティア活動について

近畿支部震災情報委員長 西 部 明 郎

## ■地震国日本に生きる

5,000人を超える犠牲者を出し、都市機能の全てを壊滅させた兵庫県南部地震は自然の力の恐ろしさと、人知の及ばないことを私達に示してくれました。目を閉じて地球の構造を思い描けば、私達が唯一の據りどころとしている大地というプレートはマグマの上に浮かび、漂流する極めて薄い皮のようなものであり、しかも幾つものプレートがせめぎ合う日本は何時、何処で大地震が発生しても不思議ではなかったのです。今度の阪神大震災で得た教訓によって地震学、構造学、防災工学、さらには危機管理システム、通信、電気、上下水、ガス、輸送等、さまざまな分野でより災害に強い都市経営が追求されるようになるでしょうが、やはり予測を超える自然の力に遭遇すれば、再び思いがけない災害を蒙ることを避けることはできません。それでも私達は美しい、この国土をこよなく愛し、この国に住み続けることに疑いを抱く人はいないでしょう。少なくとも何年かに一度は日本の何処かで震災が発生することを自明の理として生きて行くための知恵は、ただ一つ、そのような震災を一地域の不幸な出来事と対岸の火災視することなく、国民すべてのものと受けとめて全国的な相互扶助のシステムを確立して被害地の復興に当たることです。今回、多くのボランティアが活躍し、義援金、救援物資が集まりました。JIA近畿支部が全国的に呼びかけて行なった今回のボランティア活動も、そのような気持ちを率直に表したものでした。しかし抜本的には国政のレベルで全国民の負担によって巨額の復興資金を集めることに国民的合意が必要だと思います。何よりも営々として築き上げてきた暮らしの全てを失った個人が再起できるようなシステムを確立しておくことが必要だと思います。

以下に私達が少しでも何か役にたてることがないだろうかと始めたJIA会員のボランティア活動について、その詳細をレポートします。

## ■会員ボランティア活動の状況

当支部では震災発生後、直ちに対策委員会を設け専門家の集団として私達に何ができるかを議論して参りましたが、最終的に行政サイドによる被災度判定の対象とならなかった木造住宅を中心に危険度を判定しアドバイスする業務をボランティア活動で行うのが最善の選択であるとの結論に達しました。早速、支部会員に呼びかけボランティアを募集し多数の応募者を獲得しましたが、現地受け入れ側との調整に手間取り、即刻、活動に入ることはできませんでした。1月27日、建設省の肝いりで在阪建築関係6団体による「被災建物診断窓口大阪センター」が設置され、それぞれの団体が地域別に被災地を担当することとなり、JIAは東灘、灘の2区を受け持つこととなりました。即日、現地に受付窓口を設け判定業務を開始しましたが、受付、処理件数は日ごとに増加し、支部会員のみでは対応不可能と判断して全国8支部（北海道、東北、関東甲信越、東海、北陸、中国、四国、九州）に応援を呼びかけた結果、北は北海道から南は沖縄まで旅費、宿泊費全て自己負担で多数の会員が駆けつけてくれることになりました。一方、大阪方面からアクセスの困難な中央部の調査にはJIAの兵庫部会と兵庫設計監理協会が当初から活動をしていましたが、ボランティアの人数が不足していましたので、九州、中国方面からのJIAのボランティアを応援に振り向けることとしました。なお、中央部での調査内容は東灘区、灘区と異なり全、半壊建物の区分を地図上に色分けするという行政サイドの作業の応援という形で行なわれました。

1月27日から受付した調査依頼は2月10日頃より減少の傾向が見えて来ましたので、他団体とも調整の上、2月15日をもって受付を終了することとしました。若干の未調査分の処理も2月20日をもって終了し、一連のボランティア活動を一先ず終えることとし、以後、発生する相談業務は神戸市と西宮市に設置された「住宅復旧相談センター」に引き継ぐこととなりました。

なお、2月28日までの処理件数は6,902件、ボランティア数延べ1,953名となっています。参考のため他団体の動員数をあげておきます。

(社)大阪府建築士会	1,062
(社)大阪建築士事務所協会	219
(社)日本建築構造技術者協会	185
(社)住宅生産団体連合会	598
(社)建築業協会関西支部	453

## ■震災対策委員会

J I A近畿支部の震災対策委員会は1月26日に組織されましたが、これは本来、平成7年5月に予定されていた支部大会を急遽、取りやめ昨年より活動してきた実行委員会を同じ編成で衣替えしたもので、その組織構成は次の通りです。

### 震災対策本部

本部長	泉沢 哲史 (支部長)
副本部長	浅田 恵弘 (副支部長)
	松田 昌久 (副支部長)
	小西 皓雄 (副支部長)

### 震災対策委員会

委員長	亀井 晃治
-----	-------

#### 現地対策本部

東灘区担当責任者	副委員長	竹田 秀道
灘 区担当責任者	副委員長	坪岡 秀明
大阪府担当責任者	副委員長	西岡 武治

#### 各委員会

委員長	
-----	--

#### 構造分科会

分科会長	村田 昭
------	------

#### 住宅部会

世話人代表	藤田 宜紀
-------	-------

#### 震災情報委員会

委員長	西部 明郎
-----	-------

#### 都市再生委員会

委員長	高口 恭行
-----	-------

#### 事務局

局長	出利葉 孝 山藤 等子 木田 明生 西川 堅正
本部応援	高野孝次郎 石川 誠 田辺 晃 横田 雅之
関東応援	菊地 良一 黄川田厚子 芝原由樹子

参加ボランティアの数は延べ人数であり、人によっては何回も足を運んでくれました。ボランティア活動の目的は、被災建物の危険度を安全、要注意、危険の3段階で評価することだけですが、実際に依頼者と対面しての話になると殆どの場合が、いわゆる建築相談になっています。工務店や住宅メーカーなどから取り壊しを薦められたが、本当にそうだろうかという相談、修繕、補強の方法などですが、多くの会員がカウンセラーとしての意識で、被災された人の精神的痛手に何らかの支えになればという気持ちで対応したことが報告書の随所に窺われます。取り壊さずに修理する方法をアドバイスしてたいへん喜ばれたという報告も数多く聞いています。おそらくJIA会員のこのような対応は様々な建築関係団体によるボランティア活動の中でも際立っていたであろうと想像しています。

次に強調したいことは、委員長以下、現地の責任者をお願いした会員の熱意です。全国各地から参加されるボランティアを有効に機能させるための現地の現地責任者の負担はたいへんなもので、社業を犠牲にし最初から最後まで文字通り不眠不休で責任を全うして頂きました。後方支援という名目で事務局に詰めていた私から見て本当に頭の下がる思いでした。さらに会員のボランティア活動を支えてくれたのは事務局のメンバーで、土曜、日曜も返上しての勤務を見ていて何度か休みをとるよう忠告したものの容易には聞き入れて貰えませんでした。本部事務局からも応援を出して頂きました。今回のボランティア活動の主体は近畿支部ですが、本部からも物心両面からのバックアップを頂き、いまさらのように全国単一組織であることの強みを感じた次第です。

#### ■現地対策本部

東灘区、灘区に置かれた現地対策本部の業務は当日のボランティア参加者に対するオリエンテーションから始まります。前日までに受付済みの資料を受取った担当者は直接、依頼者と電話連絡をとり原則として2名一組で現地に赴き判定結果やアドバイスを口頭で依頼者に伝え、終了後、再び現地対策本部に戻り調書を受付に返して一日の業務を終了します。窓口の方では診断依頼の受付が始まります。氏名と建物所在地、連絡用電話を依頼者に記入して貰い、受付担当が被害の概要と診断希望の内容を聞き取って調書に記入します。住宅地図のコピーに所在地をプロットし、方面ごとにまとめておきます。現地責任者はボランティア全員の帰着を確認した後、当日の資料を持って大阪の支部事務局に置かれた対策本部まで帰り、翌日以降の体制についての調整を行うことが多かったようです。一方、対策本部の日常業務は翌日以降のボランティア応募者と連絡をとり人数を確定すること、ボランティアに対する保険事務、調査結果を依頼者に回答できなかった物件に対してのフォロー、さらには電話による様々な問い合わせに対する対応に忙殺されていました。

#### ■ボランティアに対しての傷害保険

ボランティアは費用負担を含めて全て自己完結、自己責任が基本ですが、JIAは会として会員へのバックアップを当然の業務とみなし本部、支部の専属事務職員を全面的に投入しています。さらにボランティアに万一の事故があった場合に備えて包括保険契約による旅行傷害保険に団加入し、その保険料を全額負担しています。これは家を出てから帰宅するまでの事故を保障するもので3泊4日まで770円でカバーされ、死亡時1,000万円その他傷害時、入院時の保証がつくものです。

## ■調査を終了して

今回の地震で倒壊した建物は大別して

1. 新耐震基準に適合する設計がされていて壊れたもの。
2. 旧耐震基準で設計されていたもの。
3. 耐震性能が殆どなかったもの。

の3つの何れかです。1については、新耐震基準で想定していた以上の外力を受けたことが原因ですが、粘りや余力を持たなかったことが設計値以上の破壊力に抵抗できなかったことを示しています。2については止むを得ないとも言えますが、旧基準で設計されたものは耐震診断を行ない、しかるべき補強をすることが望ましいことなので、それを怠っていたことに直接の原因を帰すべきです。1、2ともバランスのとれた耐震壁を持ち、余力を持った建物が数多く生き残ったことから、構造計画の初歩的なセオリー通りに設計することの大切さを改めて痛感します。最終的にはコストとのトレード・オフですが、今回の震災を機に、その判断基準が大幅に変わることは疑う余地もありません。

木造住宅の倒壊は全く異なった事情であると言えます。つまり多くの倒壊住宅は老朽化の進んだ在来工法のもので土葺き瓦屋根という耐震的に最悪のものが多かったようです。これらの住宅は強い地震が来れば倒壊することが明らかであったにもかかわらず、所有者も使用者もそのことに危機意識を持っていなかったと考えざるを得ません。今回の災害から学ぶべきことは予防建築学の必要性です。自分の生命は先ず第1に自分で守るという意味で、日常の健康管理や定期検診が行われているように、住宅に対する維持管理の重要性や定期的診断の必要性について警鐘を鳴らすことが肝要かと思えます。但し、これは非常に大切なことですが自動車における車検のような制度をつくるのではなく、住民自らの意志によって点検、整備が行われるのでなければなりません。また保健体育などで健康維持のための教育があるように、住まいの安全性に対する教育が欠けていることにも目を向けて行かなければなりません。24時間、特に睡眠中も身の安全を託している自分の住宅の危険性について関心がないという社会的現象は恐ろしいことではありませんか。建築家として何ができるのかを考え、声を大にして市民レベルに浸透させることがプロフェッションに課せられた使命でしょう。従来、守備範囲に入っていなかった分野ですが、それをしなければ今回のボランティア活動が生きて来ないと思えます。

さて、阪神大震災に関わるJIA近畿支部の活動は以上の報告にあったボランティア活動をもって終わるものではないと考えています。震災対策委員会の設置時点から構想のあった都市再生委員会の活動が本格的に開始される第一歩が、今日の報告会の後半です。この委員会が今後どのようなものに成長するかは、ひとえに支部会員の皆様のご意見によるわけですが、少なくとも本日お配りしたJIA NEWS近畿増刊の続編を継続的に配布することを最初のステップとしようと考えています。震災と復興に関わる技術情報、法律情報などを収録して会員の活動を支援することが目的ですが、委員会で集めた情報だけでなく個々の会員が調査、復旧などで経験されたことを多くの仲間に周知することも重要な使命です。皆様方からの積極的な情報提供を是非お願いしたいと存じます。

## ボランティア活動の概要

### 1. 活動の経緯

震災直後に、各行政庁に正副支部長が訪問。J I Aとして震災の復旧支援の申し出をした結果、下記の要請があり、活動を行った。

#### ① 建設省

建設省の要請で被災度判定支援体制会議を建築関連団体で構成。

地域分担を決め、J I Aで神戸市東灘区と灘区を担当することとなった。

各区役所内に相談窓口を設け、申込分の調査を行った。

共同住宅については応急危険度判定を行政サイドで行っていたので戸建住宅と、行政判定分のフォローをした。

近畿支部会員の他、全国から会員や所員の方の協力を得た。

#### ② 大阪府

大阪市以外の府下全域で、大阪府の電話相談受付分を、行政職員に同行し、職員に技術的な助言を行った。

#### ③ 大阪市

大阪市内で直接市民よりJ I A事務局で電話相談を受け、現地調査を行った。

#### ④ その他

地元の兵庫部会では瀬戸本淳部会長を中心に、神戸市の要請を受けて被災度判定等に協力するとともに、震災発生直後から、自主的に巡回相談を行っていた。

また、この活動には、中国、四国、九州各支部の会員の方を中心とした協力があった。（神戸市長田区の調査を応援）

その他にも会員各自で自主的な活動を行った。

### 2. 活動の実績（2月28日現在）

		調査件数	延ボランティア数	活動期間	備考
被災度判定支援体制会議分	東灘区	3,335	1,006	1/27-2/19	
	灘区	3,455	739	1/27-2/26	
	小計	6,790	1,745		
大阪府		23	8	1/26-1/27	
大阪市		89	65	1/24-2/20	
長田区他支部応援		(集計中)	135	2/4-/219	保険登録数
合計		6,902	1,953		

東灘区、灘区は判定結果の集計が出ているので、以下で詳細を報告する。

東 灘 区

調査日	相談申込件数		調査件数		判定内訳			J I A相談員数	
	日	累計	日	累計	A	B	C	日	累計
1/27	51	51	24	24	5	14	5	18	18
1/28	126	177	82	106	23	37	22	19	37
1/29	139	316	47	153	24	13	10	13	50
1/30	166	482	63	216	16	22	25	26	76
1/31	193	675	115	331	22	59	34	19	95
2/ 1	180	855	77	408	24	31	22	25	120
2/ 2	265	1120	130	538	51	45	34	32	152
2/ 3	244	1364	130	668	26	78	26	33	185
2/ 4	253	1617	523	1191	78	318	127	107	292
2/ 5	142	1759	384	1575	110	200	74	113	405
2/ 6	211	1970	76	1651	28	27	21	43	448
2/ 7	139	2109	94	1745	58	19	17	31	479
2/ 8	227	2336	191	1936	70	77	44	49	528
2/ 9	168	2504	160	2096	74	56	30	45	573
2/10	176	2680	210	2306	106	66	38	53	626
2/11	116	2796	310	2616	155	90	65	121	747
2/12	74	2870	143	2759	71	50	22	57	804
2/13	140	3010	62	2821	25	28	9	29	833
2/14	147	3157	103	2924	52	30	21	33	866
2/15	116	3273	112	3036	57	32	23	35	901
2/16	18	3291	73	3109	38	14	21	21	922
2/17	13	3304	69	3178	28	18	23	20	942
2/18	18	3322	124	3302	59	34	31	55	997
2/19	13	3335	33	3335	14	9	10	9	1006
2/20	0	3335	0	3335	0	0	0	0	1006
合 計		3335		3335	1214	1367	754		1006

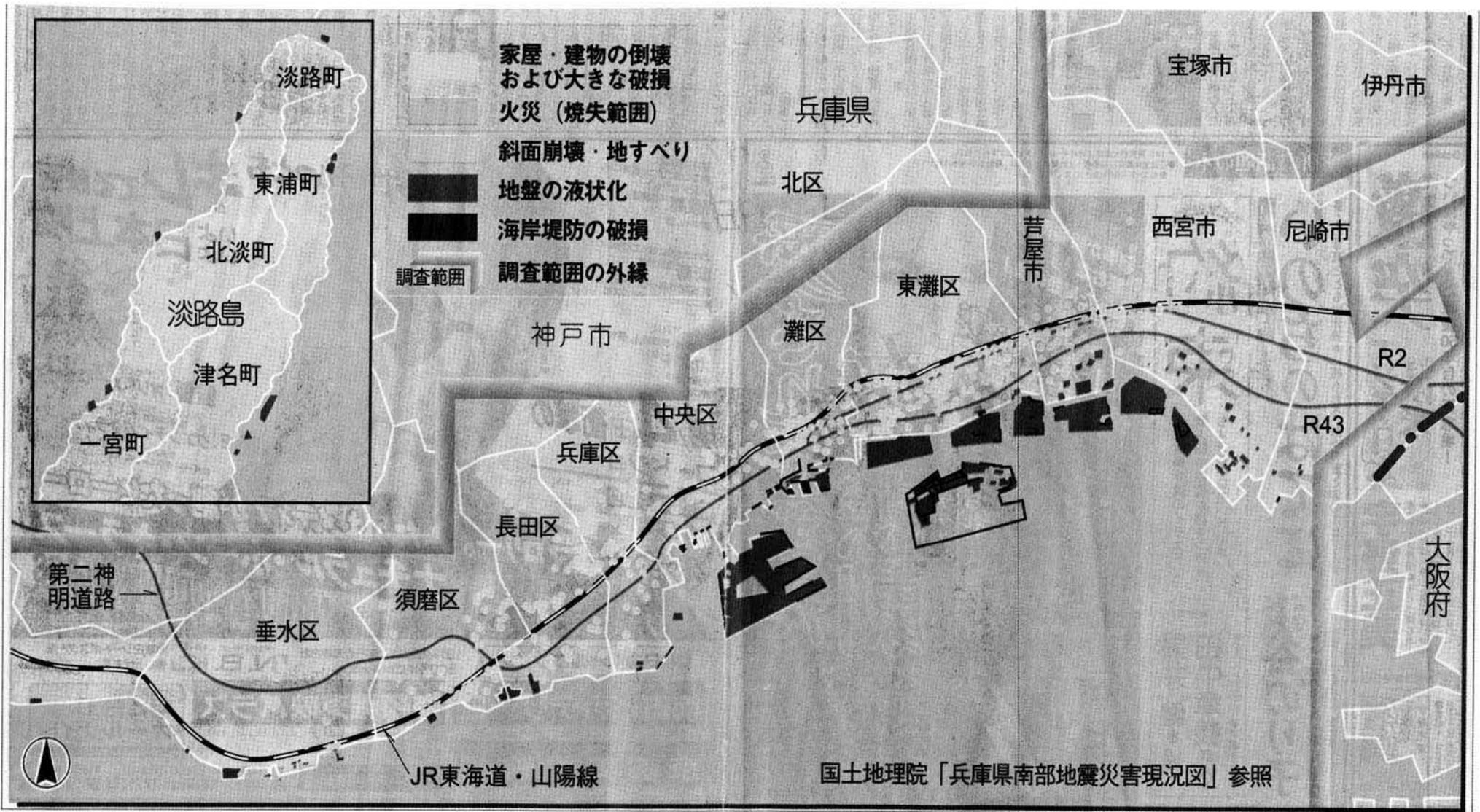
灘 区

調査日	相談申込件数		調査件数		判定内訳			J I A相談員数	
	日	累計	日	累計	A	B	C	日	累計
1 / 27	65	65	7	7	3	4	0	11	11
1 / 28	144	209	66	73	24	26	16	15	26
1 / 29	191	400	77	150	20	35	22	19	45
1 / 30	271	671	37	187	6	9	22	11	56
1 / 31	255	926	13	200	3	4	6	11	67
2 / 1	312	1238	103	303	29	33	41	23	90
2 / 2	332	1570	107	410	34	48	25	20	110
2 / 3	195	1765	107	517	24	43	40	23	133
2 / 4	228	1993	767	1284	256	300	211	116	249
2 / 5	149	2142	622	1906	276	199	147	100	349
2 / 6	229	2371	120	2026	45	41	34	26	375
2 / 7	178	2549	95	2121	36	39	20	30	405
2 / 8	145	2694	181	2302	61	77	43	39	444
2 / 9	144	2838	189	2491	71	61	57	39	483
2 / 10	109	2947	124	2615	58	41	25	27	510
2 / 11	93	3040	285	2900	110	104	71	58	568
2 / 12	77	3117	158	3058	64	56	38	40	608
2 / 13	134	3251	35	3093	21	7	7	12	620
2 / 14	98	3349	24	3117	16	5	3	11	631
2 / 15	85	3434	56	3173	33	12	11	16	647
2 / 16	0	3434	0	3173	0	0	0	0	647
2 / 17	4	3438	60	3233	28	21	11	14	661
2 / 18	4	3442	170	3403	89	47	34	61	722
2 / 19	9	3451	37	3440	17	12	8	12	734
2 / 20	4	3455	8	3448	5	2	1	3	737
2 / 26	0	0	7	3455	5	2		2	739
合 計		3 4 5 5		3 4 5 5	1 3 3 4	1 2 2 8	8 9 3		7 3 9

今年5月に開催の予定でしたJ I A近畿支部大会を中止し、その実行委員会組織が急遽「阪神大震災対策委員会」として対応することとなり、神戸市でJ I Aが担当することとなりました。東灘区は、竹田秀道副委員長に、灘区は坪岡秀明副委員長に、そして大阪府下は西岡武治副委員長に各々現地責任リーダーとして担当していただくことにしました。1月27日から現地入り、受付窓口を設置、即「危険度判定」活動を開始しました。初動調査からのJ I Aの基本スタンスは、医者に例えるならば、個々に問診をしてから、全ての家に往診に行き、被災者の立場に立って、今後どうすれば住み続けることが可能か、又は残念ながら取りこわさなければならないか、親身に相談にのり、①②③の判定をすることにしました。

2月20日、相談、調査終了までの25日間を通して、近畿支部会員の皆さんはむろんのこと全国から駆けつけて下さった、延べ1,743人にのぼるJ I A会員ボランティアの方々には、連日寒中ガレキをかき分けての現地調査と夜遅くまでの事後処理にと、誠実に主旨を遂行していただきました事に対し、あらためて本報告をもって深く感謝を申し上げます。むすびとして、建築基準法の第一章、第一条には、「建築物は国民の生命、健康及び財産の保護を図り、もって公共の福祉の増進に資すること」とありますが、今回の阪神大震災では一瞬にして、多くの建築物が倒壊し、5,400余人の尊い命が失われました。そして犠牲者の90%の方々は大倒壊建物等による圧死又は窒息死であった事実に、私たち建築家が安全と思っていた耐震という日本神話が、それを上回る自然の破壊力にいかにか脆いものであったか……。

対応した建物危険度判定ボランティアという現地調査活動を通じて痛切に実感したことを記し報告とします。



土木

- 高架鉄道 (RC、盛土)
- 高架高速道路 (RC、S)
- 港湾、岸壁、護岸
- 地盤
- 地下鉄道

ライフライン

- 上水道
- 下水道及び処理場
- 消防用水
- 電気
- ガス
- 情報

建築

- 木造住宅
- 木造住宅
- 路線商店街
- 路線商店街
- 集合住宅
- 集合住宅
- 一般ビル (RC、SRC、S)
- 一般ビル (RC、SRC、S)
- 地下街

1995.2.3.(全)  
調査終了